

第四十回記念 台東薪能

令和元年九月三日(火) 午後五時四十五分開演  
於・金龍山浅草寺境内(雨天時 浅草公会堂)

演目の解説  
〔火入れ式〕  
兎玉 信 (能楽評論家)  
木遣り・まとい 新門齋頭連中

素謡 番組

神歌 シテ (翁) 観世 喜正 ツレ (千歳) 永島 充 地謡

佐久間二郎 遠藤 喜久 中所 宜夫 鈴木 啓吾

能

ツレ (草刈男) 桑田 貴志  
ツレ (草刈男) 中森健之介  
シテ (草刈男) 坂 真太郎  
シテ (平敦盛) 坂 真太郎

敦盛

二段之舞

ワキ (蓮生法師) 館田 善博  
間 (里人) 若松 隆

大鼓 柿原 弘和  
小鼓 鷗澤洋太郎

一噌 隆之

〈休憩〉

狂言

末広

シテ (果報者) 山本泰太郎  
アド (太郎冠者) 山本 則孝  
アド (売り手)

後見 河井 美紀  
弘田 裕一

地謡

小島 英明 遠藤 喜久  
佐久間二郎 中所 宜夫  
永島 充 駒瀬 直也  
鈴木 啓吾 奥川 恒治

半能

ツレ (赤獅子) 奥川 恒治

シテ (白獅子) 観世 喜正

ワキ (寂照法師) 森 常好

石橋

大獅子

大鼓 柿原 弘和  
小鼓 鷗澤洋太郎

大鼓 小寺真佐人

後見 坂 真太郎  
遠藤 喜久

地謡

菅野 貞男 鈴木 啓吾  
小島 英明 駒瀬 直也  
佐久間二郎 弘田 裕一  
永島 充 中所 宜夫

終演予定 午後八時五十分

演目のあらすじ 能楽評論家 兎玉 信

素謡「神歌」  
台東薪能第四十回記念を祝つて謡われます。はるか彼方からやつてきた神が来臨し、天下太平・国土安穩・五穀成就を祈つて人々を祝福します。

能「敦盛」二段之舞  
一ノ谷の戦破れ、討たれし平家の公達あはれ。明治三九年(二九〇六)に発表された尋常小学唱歌「青葉の笛」の節です。広く一般に愛唱されました。

能「末広」  
まことに目出度い御代というので、あちらこちらで盛大な振舞(供応)が行われています。とある大資産家(果報者)の主人も一族をこぞつての振舞を思い立ち、メイングストには末広を進上しようと、太郎冠者に都で求めてこいと言いつけます。久しぶりに都に行けるとルンルン気分が出かけた太郎冠者。ところが都に着いて、肝心の「末広」が何であるかを聞き忘れたことに気づきます。

さて、この結末は？「末広」とは何か？太郎冠者の失敗談ですが、謎解きも楽しい、明るい物語です。

半能「石橋」天獅子

仏教の奥儀を極めるため天竺(インド)の霊仏靈社を回り、やがて入唐して生身の文殊菩薩が法を説く浄土という霊場清涼山までやつてきた寂照法師は、目の前の石橋を渡ろうとします。その時、二人の童子が現れ、この橋は名だたる名僧・高僧が捨身の修行をして初めて渡ることが出来た橋だ、貴方のような修行途中の者が渡れるような橋ではないと諫め、ここで待つがよい、奇瑞が現れると述べて去っていきます。やがて辺りは牡丹花咲き乱れる霊場の様となり、文殊菩薩の使いである霊獣獅子が現れて牡丹花に戯れつつ千秋万歳を祝し、獅子の座に直ります。

半能は、獅子の登場する後半を演じる演式。「大獅子」は白・赤二頭の獅子が豪壮かつ華やかに躍動する演出をいいます。